

多収でいもち病に強い焼酎麴用米専用新品種「み系 358」の育成

○森山あゆみ・押川純二・松浦聡司¹⁾・三枝大樹²⁾・北崎康生³⁾・永吉嘉文⁴⁾・井場良一³⁾

(宮崎総農試・¹⁾ 宮崎県西諸県農林振興局・²⁾ 宮崎県南那珂農林振興局・

³⁾ 宮崎県東臼杵農林振興局・⁴⁾ 宮崎県北諸県農林振興局)

【目的】

宮崎県で焼酎原料等に利用される業務・加工用米は、食品の安全・安心志向の高まり等から国産米の需要が高まっているが、業務・加工用米は価格が安いことから、経営安定のためには、極多収で低コスト生産できる品種の開発が課題となっていた。

そこで、耐倒伏性が強く、多収でいもち病に強い焼酎麴用米専用新品種「み系 358」を育成したので、その特性を報告する。

【育成経過】

「み系 358」は、2008 年宮崎県総合農業試験場において、多収で耐倒伏性の強い「南海 141 号」を母、いもち病圃場抵抗性遺伝子 *Pi39* を持ち、いもち病に極強の「東北 195 号」を父として人工交配を行った組合せに由来する。

同年冬に F₁ を養成し、初期世代は集団育種法で世代を進め、2006 年の F₄ 世代に個体選抜を行い、以後系統育種法により選抜固定を図った。

2012 年 F₆ 世代に「み系 358」の系統名で生産力検定及び特性検定試験に供試した。早急な品種化と普及を図るため、2014 年 F₈ 世代からは、「南海 181 号」の系統名で、宮崎県内で 25 か所の実証ほを設け適応性を検討した。同時に醸造試験を行い、既存品種と代替可能と判断されたことから、2015 年 6 月に品種登録出願を行った。併せて奨励品種決定調査現地試験を実施しており、宮崎県で奨励品種として採用予定である。

【特性概要】

稈長は「まいひかり」並の短稈で、穂長は「まいひかり」より長い。穂数は「まいひかり」並みで草型は“中間型”である。出穂期、成熟期とも「まいひかり」より 2 日早く、暖地では“晩生の中”に属する。耐倒伏性は「まいひかり」並で“強”である。玄米千粒重が 28.8 g と大粒でやや長形のため、「まいひかり」や他の主食用品種との識別が可能である(図 1)。玄米収量は「まいひかり」よりも 2 割程度多い。いもち病圃場抵抗性遺伝子 *Pi39* を持ち、葉いもちおよび穂いもちに対する耐

病性は“強”で「まいひかり」より強い。玄米品質は、大粒であることから心白粒や腹白粒の発生が見られ「まいひかり」よりやや劣る。白米のアミロース含有率は「まいひかり」よりもやや高く、醸造試験においても、蒸米の粘りが少なく作業性が良好であるとの評価を得ている(表 1)。

表 1 「み系 358」の特性概要

系統名・品種名	み系 358	まいひかり	
早晩生草型	晩生の中 中間型	晩生の晩 中間型	
出穂期(月・日)	9.06	9.08	
成熟期(月・日)	10.19	10.21	
稈長(cm)	82.9	80.8	
穂長(cm)	20.3	18.7	
穂数(本/m ²)	402	395	
耐倒伏性	強	強	
穂発芽性	中	難	
脱粒性	難	難	
耐病性	葉いもち	強	中
	穂いもち	強	やや強
	白葉枯病	やや弱	弱
玄米重(kg/a)	70.6	59.4	
同上標準比(%)	119	100	
玄米千粒重(g)	28.8	21.6	
検査等級 ¹⁾	4.1	2.5	
白米アミロース含有率(%)	24.6	23.6	

注1) 1(1等の上)～10(規格外)の10段階評価

※ 2012～2014年の平均値



図 1 粳・玄米の比較写真

左:「み系 358」 右:「まいひかり」